

女と通貨と 政治文化

——失われた二十年をこえて

真相に迫る！

「失われた二十年」の

A5判／336頁／定価 本体1,800円＋税

まどか

著者 ▶ 円より子 (民主党参議院議員)

[著者紹介]

2010年夏の参院選(比例区)で4期目に挑戦。津田塾大学英文科卒。ジャパントイムズ勤務後、フリーのジャーナリストとして女性・家族問題の評論・ボランティア活動を続ける。1992年日本新党結党に参加。その後、民主党副代表、ネクスト・キャビネット財務大臣等を歴任。衆参で初めて女性として参院財政金融委員長を務める。



—— 円より子と政治家・官僚たちとの 国会における攻防、15年の記録！

宮澤喜一氏、村山富市氏、小淵恵三氏、小泉純一郎氏、麻生太郎氏、竹中平蔵氏、速水優氏、堺屋太一氏、塩川正十郎氏、武村正義氏、渡辺喜美氏…等との国会論戦から見える、「失われた二十年」の処方箋とは？

少子化は進み、目の前に超高齢化社会が迫っている。右肩上がりの成長は望むべくもないが、少子高齢と低成長を前提としつつ、人々が安心して、さらに夢を持って生きていける社会を構築しなければならない。そのためにも、バブル崩壊から二十一世紀に入って、世界同時不況に至る「失われた二十年」とも言われる困難な時期の、国会における真剣な政策論議を振り返ることとした。(はじめにより)

少子高齢社会・人口減少時代を乗り切る処方箋！

本書は、生活者の立場から経済を論じている。生産者が主導する時代が終了した今日、不可欠な視点だ。しかも、経済活動の座標軸としての通貨の重要性を認識し、「失われた二十年」の原因は、円安政策のもとで貿易黒字相当の輸出代金を回収していないことにありと喝破している。さらに脱却の方向も示す必読の書である。

経済アナリスト
三國陽夫氏
推薦！



第一法規

東京都港区南青山2-11-17 〒107-8560
<http://www.daiichihoki.co.jp>

Tel. 0120-203-694
Fax. 0120-302-640

はじめに

序

- 1 それは住専から始まった
- 2 山一の飛ばし
- 3 ゼロ金利は手に負いかねると宮澤さん
- 4 中小企業にエール——貸し渋りと苦境の中小企業
- 5 バランスシート不安で増え続ける失業・自殺
- 6 不況を克服するには土地政策
- 7 日本円の信用を高め、国民の資産の積極的な運用を
- 8 株価一万円を割り込み、市場にマネー流通せず

9 なぜ日本は弱い円が好きなのか

——失われた十年、資産デフレと時価会計

10 倒産・失業を増やし、

国民に基大な痛みと損失をもたらした竹中大臣

11 与党自民・公明による言論封殺は参議院の自殺行為

12 小泉さんのしかめっ面

13 黒字亡国への警告

14 ドル建て資産のリスクから内需拡大へ

15 根本問題を理解しない麻生さん

16 本格的非自民政権の始動——コンクリートから人へあとがき

3 ゼロ金利は手に負いかねると宮澤さん

バブル崩壊後の長期に渡る経済の低迷は、西暦二〇〇〇年を迎えようとする時期に至っても続き、国内外で金融システム不安が高まった。そうした中、投資家が「賢への逃避」を名目として、安全資産である国債への投資を加速したことから、我が国の長期金利（新築十年物の国債の流通利回り）は、一九九八年九月に古今東西に例のない〇・六四％という水準にまで低下した。

しかし一方で、景気回復を優先した小渕政権が国債を大量に発行したため、その需給バランスを危ぶむ見方が次第に台頭してきた。そうした状況の下、一九九八年十二月下旬に、大蔵省が資金運用部による長期国債の買入れを停止すると表明したことから、国債の消化に対する市場の疑念が高まり、長期金利は急上昇、翌一九九九年二月初旬には二・四四％を記録した。いわゆる「資金運用部ショック」である。我が国において、数ヶ月間で長期金利が二％ポイント近く変動した例は、その後、本書執筆時まで見られ

ない。

こうした長期金利の激しい動きを受けて、大蔵省は、同年二月中旬に、長期国債の買入れ再開を決定。加えて、一九九八年四月に新日銀法が施行された日銀も、ゼロ金利政策を打ち出したことから、国債相場はようやく落ち着きを取り戻した。

小渕政権は一九九八年七月三十日に発足したが、一九九九年一月十四日からは、小沢一郎氏が率いる自由党と連立を組んだ。ちょうど私が参議院予算委員会において、ゼロ金利とこの「資金運用部ショック」について質問したのは、自自連立の時代である。そして、私自身は、前年に結成された民主党で参院選に出馬し当選。二期目に入っていた。

当時の小渕首相、宮澤蔵相らに対して、私は、このような長期金利の乱高下をもたらした政府の対応が適切であったのか、そもそも、バブル崩壊後の政府・日銀の対応が適切であったのかを、改めて取り上げた。

宮澤蔵相は私の質問に答えて、「金利ゼロというのは、何か人類の歴史では紀元前にあつたとかなかつたとかというところでございますから、それが何を意味するか、どうも私にはちよっとこの話は手に負いかねます」と述べた。財政・金融分野における政府の最高責任者であり、総理経験者でありながら、その識見を買われて再度蔵相に就いた宮澤さんです。ゼロ金利という事実上人類初の試みがどのような功罪をもたらすのか、必ずしも認識していなかったことは驚きである。

余談であるが、宮澤さんが大蔵省の能吏であったことや、財政や金融についてだけでな

*1 五％の金利が二％

上から国債市場の需給には五％の金利が二％の金利を加えた三％に落ち着きを取り戻した。二万五千億の金利が七％に上がる場合、上昇分の二％を前年の増収に充当するために、二％ポイント削減する。

*2 ゼロ金利政策

日本銀行は、操作目標である無担保コール日当金利をゼロに誘導する政策、金利をゼロにするとして、貸し渋り入れ企業ととっては、返済の負担が減少する。そのために、企業による融資の取り入れ、投資促進効果の期待される効果がある。期待される。同時に政府にこの国債の増発に反対の声をあげられるため、日本銀行による信用の獲得することが困難になる。

*3 なお、大蔵省は、歴史

お試し読み、お申込はコチラ



第一法規

検索



<クレジットカードでもお支払いいただけます>